

校長会広報

No.859 令和6年11月6日
発行 岐阜県小中学校長会
岐阜市菅原町3丁目3番地
TEL (058) 265-0338
FAX (058) 263-8892
代表者 梅村高志
印刷 (株)杉江美術印刷

県教育委員会との意見交換会

1. 日時・会場

令和6年7月25日(木)
岐阜県庁17階

2. 意見交換内容

堀貴雄岐阜県教育長をはじめ、青木孝憲義務教育総括監並びに県教育委員会各課課長・教育主管方と県小中校長会の代表が、義務教育の学校現場の現状や今後の展望に向けて、意見交換を行いました。

コロナ禍が明け、学校現場にも諸般の制限がなくなったとはいえ、コロナ禍が与えた子供たちや教職員への影響は大きく、今後も細やかなフォローが大切であることについて、忌憚なく発言し合いました。また県教育長からは、「今の管理職が、若い時代にがむしゃらに教職に励んできた経験を今の若者世代に押しつけるのでは無く、今の若者世代に合う、新たな働き方を模索し学校経営を推進していることに敬意を払おう」との言葉もいただきました。

意見交換会の具体的な項目については、以下2点でした。

- 1 児童生徒及び職員の安全・安心について
 - ・スクールカウンセラーの活用など
- 2 人的拡充について
 - ・校内教育支援センターへの学習指導員の活用
 - ・働き方改革をふまえた加配のあり方

1については、スクールカウンセラーと管理職をはじめとする関係職員が対面で情報共有できる時間のうみだしや、いじめ等の未然防止や早期発見につながる活用法を話し合いました。2については、少人数教育や小学校における教科担任制を進めるための加配配置、不登校児童生徒支援のための「校内教育支援センター」設置に向けての機運、文科省が新規に予算化した「副校長・教頭のマネジメント支援の配置」について、予定時間を超える意見交換を行いました。

(鵜沼第三小 加藤 大志)

退職校長会との懇談会

1 日時・会場

令和6年8月23日(金)
県校長会館 2F会議室

2 懇談会の概要

青木廣志副会長による会の趣旨説明に続き、各校長会の会長が以下の内容について、説明を行った。

【梅村 高志 県小中学校校長会 会長】

- 退職校長会の先生方からの指導・助言のお礼
- 岐阜県校長会館の状況と今後の見通し
- 教育現場の現状と令和6年度県小中校長会の方針
- 第4次岐阜県教育振興基本計画と昨今の教育改革
 - ・子供の居場所作り
 - ・小学校での教科担任制
 - ・ICT教育の推進
 - ・働き方改革の更なる工夫改善
 - ・定年の段階的引き上げ
 - ・教職への魅力化



○小中校長会の6委員会の主な取組

【岩見 浩二 県小学校校長会 会長】

- 小校長会の活動の方針と重点 飛騨地区大会
- 全連小・東陸連小について

【佐藤 幹彦 県中学校校長会 会長】

- 中校長会の今年度の活動の方針と重点
- 令和7年東海北陸大会岐阜大会に向けて

3 質疑応答

■退職校長会からの質問

○地域にいる退職校長に期待していることは何か。

■県小中学校校長会長の回答

- ・心を病んで休職する職員や育休取得の男性職員による欠員、教科担任制の導入による人材不足が切実な問題である。また、小学校低学年や特別支援学級の指導に力を注ぐ必要もある。各地域においてお力添えいただける方がおみえであれば、ぜひ紹介していただきたい。

4 終わりに

○各地域で話題にし、県や国に働き掛けたいと吉田政直会長のお言葉をいただいた。

(長森西小 棚橋 英生)

今の自分でしか綴れない、今の自分だからこそ綴れる 夏の「こころ」

— 令和6年度「夏休みの詩（第59回）と作文（第45回）コンクール」の審査から —

審査委員長 荻野洋子

今年の夏も、猛暑が続きました。また、地震や大雨による甚大な被害をうけ、自然の猛威にさらされた地域もありました。

そんな中、パリオリンピック・パラリンピックが開催されました。多くの観衆が見守る中、世界中のトップアスリートたちが、それぞれの思いを胸に躍動しました。選手にとってかけがえのない夏であったように、子供たちもまた、様々な体験を通して、今の自分でしか感じられないこと、今の自分だからこそ考えられることを言葉にして、自分の夏を綴った作品が多く寄せられました。県内各校より、詩、作文合わせて1513点の応募がありました。

■ 応募点数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
詩	4	21	33	59	20	14	151
作文	1007	131	57	39	100	28	1362

■ 作品の総評

【 詩部門 】

今年の夏も暑かったですが、みずみずしい夏の体験や思い出にふれることができました。

低学年は、甲虫やかなへび等の身近な生き物、プールやラジオ体操といった夏の定番とも言えるものを



題材とし、感じたことを擬音語を用いて、リズムよく書いていました。

中学年は、お墓参りや地域の文化・自然に目を向けた

作品が多かったです。教科で学んだこととつなげて考えたり、擬人法を用いて会話するように書いたり、個性豊かな作品に仕上がっていました。

高学年になると、家族や近所の人との関わりから自分の生き方について見つめ、思いを綴った作品が見られました。言葉を精選し、短い言葉でも思いがよく伝わってきました。いずれの作品も、生活の中

から題材を見つめる目が育っていることがすばらしいです。

〔文責：岐阜市立厚見小学校教頭 大野晋一朗〕

【 作文部門 】

作文に綴られた「感じる心」は、書いた子一人一人の「自分らしさ」を生み、読み手の心をつかんで楽しませてくれます。

低学年は、印象深い出来事や体験を題材に、思いを素直に表現している、ほほえましい作品が多く寄せられました。



中学年は、家族との夏の思い出を題材に、感じた思いを自分の言葉で表現している作品が多く見られました。

高学年は、よりよい生活に向けた思いや、熱中していることを通して考えたことを、表現豊かに伝えている作品でした。

文章は、読み返すことで再び、その時の感動を味わうことができる、すてきな機会を与えてくれます。子供たちの「感じる心」に寄り添って、指導いただいたご家族の方や先生方に感謝いたします。

〔文責：本巣市立土貴野小学校教頭 板蔭 典子〕

■ 終わりに

今年も子供たちの作品を読む機会をいただきました。例えば川遊びの作品。水の冷たさや、川の中の美しさを作品にする子、隣で嬉しそうに泳ぐ兄弟の様子に着目する子など、同じ題材であっても、その子その子で心に響くことは異なります。文章は人そのものだ実感すると同時に、あらためて自分の思いを文字で綴ることは尊いと思いました。

校長先生方におかれましては、本コンクールが子供たちにとって「言葉で自分を綴る好機」となるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。

生徒一人一人の自己実現を目指す進路指導の充実

進路指導委員長 河合 美佐子

1 はじめに

学校は、生徒自身が悩みながらも自分で進路を選択できるよう、生徒や保護者に正確な進路情報を確実に提供し、生徒一人一人の自己実現を目指す進路指導の充実に努めなければなりません。

また、高校入試における制度変更や、入試対応への充実を図るために、関係機関との連携をさらに深めていく必要があります。

2 今年度のこれまでの主な活動

(1)私学協会との懇談会①（6/18）

- ・私立高等学校の入試選抜等に関する要望の審議
- ・部活動等における中高連携の確認

※ 今後も中高の良好な関係を維持し、部活動における中高連携について全職員に共通理解を図ることをお願いしました。

(2)公立高等学校長との代表者連絡会議（7/3）

- ・入試選抜等に関する要望の審議
- ・高校見学会の実施等
- ・部活動等における中高連携の確認
- ・入試制度改革の推進

(3)県PTA連合会役員との懇談会（7/30）

- ・公立高等学校入学者選抜日程の説明

(4)私学協会との懇談会②（9/13）

(5)私学合同説明会（9/25～10/10）

- ・岐阜、西濃、可茂会場でそれぞれ2日間開催

(6)各中学校長への文書配信

- ・私学協会、公立高等学校長との懇談会で確認されたことの周知
- ・部活動における中高連携の確認

※ 「部活動等における中高の連携申し合わせ事項」（令和6年度版）を送付し、練習会の解禁日、相談の期限について周知しました。

また、昨年度より通年措置とした「練習会の開催時期を1カ月前倒した8月1日を解禁日」についても確認し、その遵守について、文書にて通知しました。

3 今後の主な活動

(1)県教育委員会との懇談会（11月）

入試制度改革や入試事務等に関わることについて要望をします。

- 第一次選抜、一本化」「全員への学力検査実施」の入試制度の継続
- 現場の声を反映し生徒の立場に立った入試制度改革等の推進
- 進路事務のデジタル化
- 特別な配慮を要する受検生への柔軟な対応（帰国・外国人を含む）
- 受検生や保護者への丁寧な説明
- 「独自検査」の選抜要件と検査方法の検討と継続
- 調査書への記載内容の検討
- 可否に関わる学校への通知
- 高校見学会の在り方や申し込み方法の検討
- 部活動における中高の連携申し合わせ事項の徹底

(2)公立高等学校長との代表者連絡会議（12月）

4 おわりに

今年度も、私立中学高等学校協会、県高等学校協会、県教育委員会関係各課、県PTA連合会の代表の皆様と懇談を行ってきました。いずれの会においても、互いの立場を理解し、尊重しながらも率直に意見を交流し合い、生徒にとってよりよい方向を探ることができました。

また「部活動等における中高の連携申し合わせ事項」についても、それぞれの立場で課題を真摯に受け止め、周知徹底していくことを確認できました。今後も関係機関との連携を図りながら、更なる入試制度改革に努めます。

進路指導委員会として、校長会の諸先輩方がこれまでに築き上げた信頼関係をより強固なものにしながら、生徒一人一人の願いに寄り添った進路指導を行うことで生徒の自己実現を目指していきます。

ダイバーシティ社会を幸せに生きる学校のしくみ 互いの違いを認め合い幸せな生き方を探究する「方県なかよしスクール」

岐阜市立方県小学校長 松岡 猛

ダイバーシティ社会を幸せに生きる力や人間性を子供に育むために、ユニセフ子供幸福度ランキングで世界第1位のオランダで展開されているイエナプラン教育を参考に学校改革を実践しています。今回は、昨年度より本校で実施している異年齢で幸せな生き方を探究する「方県なかよしスクール」について紹介します。

【ユニセフ子供幸福度ランキング2020年38か国調査】

オランダ(精神的幸福度)	日本(精神的幸福度)
1位(1位)	20位(37位)

1. 異年齢学級で幸せ求めて探究

1年生から3年生、4年生から6年生の異年齢学級を編成し、テーマ「互いの違いを認め合い、みんなが幸せになる時間を創る」ことができるような探究活動に取り組んでいます。

- (1)異年齢遊び…全員が幸せになる遊びを対話で決定。
不具合が発生したらみんなが幸せな時間となるよう子供が対話して解決する。
- (2)哲学対話…子供が話し合ってみたいことを話題に対話する。(例 幸せって？本当にいじめはなくなる？友達って多い方がいいの？)
- (3)学び合い…算数の予習を持ち寄り、主体的・対話的に学び合う。
- (4)活動の振り返り…互いの違いを認め合い幸せな時間であったか振り返る。

2. 異年齢学級の学びとダイバーシティ社会

異年齢学級の学び「方県なかよしスクール」と子供たちが今後生きていくダイバーシティ社会は次の点で深いつながりがあると感じています。

○多様な視点を育む

異年齢学級の学びでは、異なる年齢や背景をもつ子供たちが同じ場で学び合います。これにより、異なる視点や経験を自然に取り入れることができ、多様性に対する理解が深まっています。テーマである「互いの違いを認めみんなが幸せなる時間を創る」を意識し



て異なる価値観や考え方を尊重しながら協力する能力は、ダイバーシティ社会で必要とされる重要なスキルにつながっています。

○共感力とコミュニケーション能力の向上

年齢の違いにより、他者の立場や感情を理解する機会が増えています。これにより、共感力やコミュニケーション能力が向上し、多様な背景をもつ人々と円滑に協力することができるようになっています。

○リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ

異年齢学級の学びでは、年上の子供が年下の子供のサポートをすることでリーダーシップを発揮する機会が増えます。また、年下の子供は年上の子供から学ぶことで、フォロワーシップを養います。これにより、チームとして多様な役割を担い、協力して目標を達成する力が培われます。



○多様性に対する柔軟性の獲得

異年齢の環境で育つことで、違いを受け入れ、多様な状況に柔軟に対応できる力が養われています。このことは、同年齢学級に戻ってもその考え方は生かされており、円滑な人間関係を構築しています。また、これは、急速に変化する現代社会や異なる文化や価値観が共存する環境での適応力を高めることにつながると考えます。

3 子供側から教育を見直す

みんなの幸せな時間を創るために、様々な年齢の子供が探究する異年齢学級の学び「方県なかよしスクール」は、多様性を尊重し、他者と協力して生きる力を育む教育方法であり、ダイバーシティ社会を生き抜くために必要な基盤となることを子供たちが姿で教えてくれています。今後も、子供側から既存の教育を見直し、社会で幸せに生きる力や人間性を育む学校改革を推進していきたいと思っています。



方県なかよしスクール

子供たちの姿から思うこと

瑞穂市教育長 服部 照



子供たちの可能性を伸ばすこと

瑞穂市では、今年の夏休みも、市内の幼児・児童・生徒を対象に様々な体験の機会を提供しました。例えば、市内に勤務しているALTと歌やゲームを楽しむENGLISHサロン。

「わくわくさん」でおなじ

みの久保田雅人さんを講師に招いた親子体験工作教室。瑞穂市と連携協定を結んでいる岐阜工業高等専門学校教授によるロボットやプログラミングを学ぶ夏休み特別授業などを行いました。

定員がある講座は、参加者を抽選で決定するなど、とても人気がありました。小学生向けに行った「動くロボットを作ろう」の講座では、2時間程の時間でしたが、誰もが最後まで夢中になってレゴブロックを使いながら、車やロボットを組み立てている姿がとても印象に残りました。

瑞穂市では、これまでも文化・芸術に触れる様々な機会を提供してきました。子供たちに読書の魅力をより知ってもらおうと企画した朝井リョウ氏による講演会、音楽の素晴らしさを実感してもらおうと企画したオーケストラ・アンサンブル金沢による演奏会など。

子供たちにこうした様々な機会を提供することで、子供たちが自分の興味のあることや好きなことを見つけ、それを継続して取り組むことを通して、自己肯定感を高めてほしいと願っています。

誰もが安心して学習や生活ができる居場所づくり

最近、小・中学生の不登校は増加傾向にあります。不登校の要因は、個々によって様々で複数の要因がある場合もあり、難しい対応が求められます。

文部科学省から公表された「不登校の要因分析に関する調査研究」の結果からは、「不登校のきっかけ要因」として「いじめ被害」や「教職員とのトラブル」という項目に、教師の回答と不登校児童生徒の回答に大きな差があることがわかりました。

教師側が感じていることが必ずしも正しいとは限らないという認識で、子供に接することが求められ

ていると感じました。

また、不登校の増加は、学校が子供にとって本当に安心・安全な環境になっているかということをお私たちに問いかけているサインだと思います。今の学校は「子供たちが行きたいと思える学校になっているのか」という視点で見直す必要があります。

全ての子供たちに「学校へ行くのは楽しいと思えますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」といった質問をした際に、「そうではない」と回答している子供がいれば、その思いをつかむことが大切です。

学校が「誰もが安心して学習や生活ができる居場所になっているのか」、今一度、子供の思いに寄り添って考えてみたいですね。

令和5年12月に「こども大綱」が策定されました。「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」を実現するためには、大人のフィルターを加えることなく、子供の声に耳を傾けることが必要であると言われていています。子供の声を率直に聴いて一緒に学校を作っていく姿勢が、これまで以上に求められていると思います。

自己の資質・能力の向上を求めること

若い頃、「君は、毎月いくらくらい書籍にお金を使っているのか?」と当時仕えた教育長さんから言われたことを今でも覚えています。

ご存じのように、私たちには教職生涯を通じて学び続けることが求められています。このことは、学校教育を取り巻く環境が常に変化している中で、子供の前に立って指導することの責任を考えれば、当たり前のことかもしれません。

瑞穂市でも授業改善や英語教育、発達障がいや不登校への支援など、様々な内容の夏季研修講座を実施しました。研修の場で先生方がとても熱心に学んでいる姿を見てたいへんうれしく思いました。

学校においても、限られた時間の中で互いに切磋琢磨して学び合う機会を設けるとともに、主体的に研修の機会を求めて学ぶ姿勢を教職員に育むようにしてほしいです。自己の資質・能力の向上を求める姿勢は、子供にとって「最も身近で理想の大人」であるべき私たちの責務ではないでしょうか。

東西南北

目に美しく 目にたくましく のびていく

可児市立兼山小学校長 渡邊 正博

令和4年度より、可児市小規模特認校に指定され、今年度は全校児童61名、そのうち13名が制度を活用して学んでいます。かつて商業で栄えたこのまちには、つながりを好む風土があるのでしょうか。子供たちも保護者も地域の方々も、特認校制度を歓迎しています。

学校の概要については学校HPを訪問いただくと嬉しいです。(QRコード→)



ここでは、学校敷地内に常設した資源回収箱(以下「BOX」)を活用して、まちづくりに貢献しようという学校と家庭・地域の挑戦を紹介します。

昨年10月の学校運営協議会において会長からは、「コロナ禍を通して離れてしまった地域の人のつながりを再構築したい。」PTA本部役員からは、「会員数の減少でPTA活動への負担感(特に資源回収)が大きくなっている。」という話があまりました。そこで考えたのが「資源回収でまちづくり」です。保護者は送迎や行事で来校する機会があります。また、社会体育で休日に運動施設を使用される団体があります。最近では、スーパーなどに設置される回収箱を利用する人も多いです。そこで、「おでかけや来校のついでに、学校に資源を持ってきてください。」と、BOX活用チラシを全戸配布しました。地域は高齢化が進んでいます。日頃から保護者や子供が「資源はありますか?ついでに持っていきよ。」とご近所さんに声をかけ、つながりを生み出そうという企画です。

ある日、地域の方から「向こう三軒両隣やで、みんなに声かけて持ってきたぞ。」と声をかけていただきました。(うれしい!それですよ!)

夏休み明けに実態調査を行いました。回答率は90%。保護者のBOX利用率は95%。ご近所さんの資源を回収した方は28%。今後、ご近所さんに声をかけて回収する気持ちがある方は70%という結果でした。今後、この活動がどうなっていくか楽しみです。表題は校歌の一節です。

可能性があればやってみる。問題があれば解決する。迷った時に背中を押してくれる言葉です。



かわらないもの ～完全無言清掃～

各務原市立中央中学校長 丹羽 文雄

私は、4月に中央中学校に4度目の赴任をしました。現在合計11年目です。そんな縁のある中央中学校で、最初の赴任当時から変わらない伝統があります。それが「完全無言清掃」です。

「掃除は私語なく静かに行う」ことを大切にしている学校は多いと思いますが、本校では掃除の前後に「黙想」をしています。「1分後に黙想を始めます。席についてください。」という放送の後、「美化委員の指示で黙想を始めてください。」の放送が入ります。各学級の美化委員の合図で、自分の席について30秒間の黙想を行います。学校全体が静寂につつまれます。ここから、掃除場所への移動、バケツや雑巾等の準備、清掃活動、片付けの後教室に戻って着席し、美化委員の指示で黙想を行うまで、ずっと「無言」です。

また、そんな中央中スタイルの掃除を



職員が共通理解するために、4月当初に職員向けの「中央中清掃研修」を行っています。残留職員が実際に掃除をする姿をみせることで、異動してきた職員に中央中の掃除を教えています。初めて中央中に赴任した18年前からずっと続いています。

18年前の4月の職員会では、清掃担当の先生が、「中央中は完全無言清掃です。掃除中の指示の声や、先生の指導の声もなしです。」と話しました。その時、「無言でやるのが大切ではない。きれいにしようという思いで一生懸命取り組む事が何よりも大切である」と思ったのですが、実際に中央中の掃除を目の当たりにして、とても驚きました。上靴が床に擦れる「きゅっきゅっ」という音以外、話し声は一切聞こえず、本当に「完全無言」でした。そして無言だけでなく、一人一人が真剣に集中して掃除に取り組んでいました。無言という『形』から入ることで、意識を清掃活動に向け、姿や気持ちもつくることのできることに気付かされました。

清掃活動の本質を考えた時、無言である必要はありません。もちろん、清掃を「床と一緒に心も磨く」という精神修行のようにとらえるつもりも全くありません。しかし私は「美しい環境を保つため」だけの清掃ではなく、清掃活動を通して子供たちに「感謝の心」「公共の精神」「働くことの意義」「協力」「責任感」など、さまざまな力と心を養い、社会に送り出せるよう、これからも清掃指導を大切にしていきたいと考えています。

笑顔で何とかしよまい～「自分で何とかする力」育成のために～

美濃市校長会

1 はじめに

美濃市校長会は、小学校5校、中学校2校の7名の校長で組織されている。全ての子供たちに受け身ではなく、主体的に人生を切り拓く「自分で何とかする力」を付けるために、教育委員会と連携し、校長同士が学び合いながら、9つの課題に取り組んでいる。子供を中心に子供に関わる人たちすべての幸せのために、校長自らが笑顔と「自分で何とかする力」を大切にしている。

2 方針と重点

「笑顔で何とかしよまい」

～子供を中心にみんながウエルビーイング～

様々な学校課題にも、自律した校長同士が協働して、未来に向かって創造的に取り組む。

3 重点

①「美濃市教育大綱」及び「美濃市学校教育の方針と重点」の具現

・「あんきに行ける学校プロジェクト美濃」では医療連携や研修を通して、各校が不登校の起きにくい学校づくりに取り組んでいる。

②「自分で何とかする力」育成のための9つの課題の取組

・今年度は特に校長の裁量による創意ある学校経営を推進している。そのために各校で児童生徒や保護者、地域との信頼関係を構築しながら、

最上位目標に照らし合わせた教育活動（学校の当たり前）の見直しを行っている。

③学校経営情報交流・リーダーシップの向上

・各学校の学校経営を学び合い、自校の学校経営に生かすための情報交流に努めている。計画的に市内7校の学校訪問も行っている。
・関係機関との連携により教育改革動向や最新情報を積極的に入手し、研修に努めている。美濃教育事務所長や中濃子供相談センター、スクールロイヤー等の講話を聞いたり、特色ある学校の視察を行ったりしている。

④2委員会制による運営

・人材育成委員会では、学校のリーダーとしての職務遂行能力の向上を目的としたミドルリーダー研修会と総合的な指導力の向上を目的とした次世代リーダー研修会を計画し、実施している。
・教育問題委員会では、9つの課題の具現化、働き甲斐と働きやすさ、校長のリーダーシップによる特別支援教育について交流を図っている。

4 最後に

月1回の校長会では、学校経営上の様々な話題が出る。新たな試みを交流し合い、時には悩みを出し合い、助言し合うことで校長会が一人職である校長のお互いの支えとなっている。



校長室の



令和7年4月から宮川小学校に保育園が併設されます！

飛騨市立宮川小学校長 山下佳子

飛騨市立宮川小学校の児童数は全校8人です。極小規模校です。普段は、とてもどかな学校です。

令和7年4月からは、宮川小学校の校舎の中に、保育園が併設されます。そのため急ピッチで、工事が進められています。宮川小学校の1階の一部を保育園施設にするため、壁を取り壊す等の工事の音は、大人でも耳を塞ぎたいぐらいです。普段の静かな毎日からは想像できないぐらいの音でしたが、子供たちは、「校長先生！来年から保育園の子が増えることがうれしいから、このぐらいの音は大丈夫です。」と、もう来年のことをイメージしていました。私は非常に感動しました。しかしながら、子供たちが私よりも保育園とともに活動することを考えることに、なんと頼もしい子供たちだと自慢したく

なりました。

そこで夏休み前に、小学校の子供たちに保育園とどんな交流がしたいか、アンケートをしました。体育館で遊んだり本の紹介をしたりと、たくさんのアイデアを子供たちからもらいました。そのおかげで、この夏休みは保育園の子供たちと一緒にたくさんの活動をすることができました。そして、子供たちが自分で考え行動したことで「宮川小学校は楽しいところだよ。」ということを保育園の子供たちに伝えることができました。

改めて子供たちの成長や深い思いに気付くことができ、私自身も小学生が保育園の子供たちと手をつなぎ登校している様子を思い浮かべながら、令和7年4月を楽しみにしている今日この頃です。

校長講話 2017

「あんぜん」「あいさつ」「あたたかことば」

中津川市立坂本小学校長 景山 国博

校長先生からこの2期に大切にしてほしいことを3つ話します。それは3つの「あ」です。

1つ目の「あ」は安全です。2期は6年生の修学旅行や5年生の阿南研修、4年生の社会見学などがあります。学校から離れても交通安全などには十分に気を付け、安全な研修にしてほしいです。さらに今日からプールも始まります。先生と皆さんと一緒に安全に気を付けて授業をしましょう。毎日の学校生活では、廊下を走ったりしていませんか？これもお友達とぶつかってけがをしてしまうことにつながります。自分で安全についてよく考えて行動できるといいと思います。

2つ目の「あ」はあいさつです。児童会の皆さんが言っているように、学校の中ではもちろん、地域の方にも自分からあいさつできるといいです。そして、修学旅行や阿南研修、社会見学でも日本一のあいさつをしてきてほしいと願っています。

3つ目の「あ」はあったかい言葉、ほかほか言葉です。相手が傷つくような嫌な言葉を「ちくちく言葉」と言います。反対に、「ありがとう」「ごめんなさい」「大丈夫？」「頑張ってる」など、相手がうれしくなる言葉を「あったか言葉」「ほかほか言葉」と言います。日本一のあいさつや掃除を目指している坂本小学校なので、ほかほか言葉でかがやきキラリあふれる学校にしていきたいと思います。



【講話のねらい】 2期のスタートにあたり、大切にしたい3つを合言葉になるよう「あ」というキーワードでまとめました。安全で温かい雰囲気を楽しめる学校の第一歩であるという願いを込めました。

仲間のよさをたくさん見つけよう

大垣市立西中学長 吉田 秀慈

みなさん、2学期は、何が楽しみですか。

2学期は、東京研修、日間賀島研修、名古屋研修や合唱フェスティバルなど、様々な行事があります。私の願いは、行事を通して、仲間の様々な気持ちや思いを感じ取って、お互いに支え合い、信頼や友情、仲間との絆を築いてほしいということです。

3年生の東京研修では、都内班別研修を行います。毎年必ず、どの地下鉄に乗るかを迷ったり、道を間違えたりします。その時に地下鉄に詳しい仲間が教えてくれたり、近くの交番によって警察の方に道を聞いてくれたりして、普段学校では見ることができない仲間のよさをたくさん知ることができます。

合唱では歌うことが苦手な子がいます。そんな仲間にはやさしく声をかけてくれたり、一緒に歌って音とりをしてくれたりして、温かい心で接してくれる中で、少しずつ仲間のために頑張ろうという気持ちになることができます。人には、得意なこと不得意なことが必ずあります。それをお互いに補い、支え合いながら、社会は成り立っています。

誰にでもよいところがあります。行事を通して、普段見られない仲間のよさをたくさん見つけ、認めてあげてください。さらに、そのよさを仲間を紹介し広げていってください。それが学級、学年、全校に温かい雰囲気を作り出し、安心・安全で全員が明日も行きたくなる学校になるのです。

【講話のねらい】 行事を通して、仲間のよさを認め合うことを通して、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、仲間思いの心をもって、支え合い、学級の凝集力を高めてほしいという願いをもって話しました。

事務局だより

◆会議案内 (11月～12月分)

小中学校長会				小学校長会				中学校長会			
月日	曜	時	会議名	月日	曜	時	会議名	月日	曜	時	会議名
11. 6	水	9:10	役員会⑭ 企画部会⑦	11. 7	木	15:00	研究総会準備委員会 研究総会 飛騨地区大会(高山市)	11. 7	木	10:00	理事会① 研究総会準備委員会 研究総会岐阜地区大会 (各務原市)
		9:40		8	金	10:00		14	木	14:00	
				22	金	9:30	役員会⑧ 東陸連小事務局会 (南知多町)	15	金	9:30	
				28	木			25	月	10:00	企画委員会⑦
				29	金			26	火	10:00	県教委との懇談会
12. 6	金	9:10	役員会⑯ 代議員会②	12. 5	木	9:30	分科会委員長会④ 役員会⑨	12. 5	木		東陸中事務局会(福井市) " 中高懇談会
		10:00		12	木	9:30		6	金		
								未定			

(注) 各会とも10月末段階で実施予定の会はすべて掲載してあります。今後は、事務局からの案内によってください。

編集後記

「よりよい未来に向かって、今できること」についての内容が多い号となりました。校長として、自分が着任している今年度の学校のことだけを考えて学校経営をするのではなく、自分が去った後の学校

のこともしっかりと考え、時には職員に苦言を呈したり、前年度踏襲型から大胆にシステムを再構築したりする必要があると改めて考えました。

(K)